

## 支部 REPORT 横浜・戸塚支部

戸塚支部長 倉本 恵(昭和 59 年卒)

横浜市の南部に位置する戸塚支部には、小学校 26 校(今年度 深谷台小と俣野小が統合され、横浜深谷台小として開校)、中学校 11 校、特別支援学校 1 校、市立高校 1 校がある、規模の大きな支部です。

戸塚区は、箱根駅伝で有名な「花の 2 区」戸塚中継所がある国道 1 号線が、区の中央部を縦断しています。また、横浜市内 18 区の中で面積が最も広く、戸塚支部各校の周囲の状況も、それぞれ特徴があります。

JR 戸塚駅と東戸塚駅周辺地域は人口も多く、商業施設や大規模マンション等が立ち並ぶ一方、舞岡や俣野周辺は田園風景が広がり、自然味あふれる雰囲気醸し出しています。

私は戸塚支部在籍となり 3 年目となりましたが、小学校校長会メンバーを中心として支部の活動がおこなわれています。小学校と特別支援学校の連絡はとりやすいのですが、中学校や管理職が友松会会員でない各校との連携が取りにくいのが課題ともいえます。

本支部では、27 年度支部長の山崎浩一郎校長先生(現 戸塚区大正小学校校長)、28 年度支部長の山田昭先生(現 磯子区森東小学校校長)のご尽力の下、この 2 年間支部総会および懇親会が、戸塚きじま本陣で開催されています。

友松会顧問 金子 禎 先生(戸塚区ひまわり幼稚園園長)はもちろんのこと、友松会会長 芦川 弘 先生も毎年ご出席くださっています。また、校外会員の方々もご出席くださっているのですが、現役は管理

職以外のメンバーの参加はあまり望めない状況が、残念ながら続いております。

若い年齢層には、横浜出身の友松会会員は少なく、さらに数年本市で勤務すると、その後は地元である出身都道府県に帰るという例があちこちで見られ、必然的に支部の活動メンバーの平均年齢は年々高くなっています。

平成 29 年度は県費から市費への移管、庶務事務システムの導入等、学校現場が大きな改革の年となり、多忙化感は否めません。

私事で恐縮ですが、今年度校長として初めて横浜国立大学教育人間科学部の学生さんを教育実習生として受け入れました。国大の先生と連絡をとったり、お目にかかったりする機会にも恵まれ、またさらに友松会とのつながりができたことを嬉しく思っています。私はしっかりとした実習ぶりに、「さすが国大！」と目を細めた 4 週間を過ごしました。(支部の中でも、「国大生、国大出身はレベルが高い」という話でしております。) 実習生は現場の多忙ぶりに驚きつつも、教師を目指す気持ちをさらに強くしたようです。

働き方改革が推進され、友松会の活動にも現役会員がゆとりをもって参加してみようと思えるようになることを願いつつ、細く長く今年度の活動を進めてまいります。